

国語科 学習指導案

令和4年10月 第1学年 指導者 鈴木 宏明

- 1 題材名 夏目漱石「夢十夜」
- 2 教材観 ※省略
- 3 生徒の実態及び指導方針 ※省略
- 4 研究との関わり

平成30年度に告示された高等学校学習指導要領において、「予測が困難な時代」において、「複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている」と述べている。つまり、予測不可能な時代においては、一つの考えに執着することなく、状況に応じて考えを深化させていくような知の在り方が求められているということである。

臨機応変的な「知」を養っていくのに、文学作品は最適な教材である。文学作品は視点の置き方を変えることで、様々な顔を見せてくれる教材だからである。そのような意味で、文学作品は今日的な知を学んでいく上で重要な教材となるだろう。それは、実用的な文章の読み取りが重視される中、文学教材の今日的意義を問い直すことにつながると考えられる。視点を置く手掛かりとして「物語類型」が生かせると考えて、「conflict in literature*1」を活用した。今回は、その活動のまとめとして様々な観点から行った読解の統合を図示する読解ダイアグラムの活動を行う。それまでの読解を有機的に統合させるためには、振り返りのための手段が必要である。そこで、今回はコピー&ペースト機能などで、これまでの授業を容易に振り返ることができるICTポートフォリオを作成した。読解ダイアグラムとICTポートフォリオの詳しい説明は以下のとおりである。

読解ダイアグラム…「conflict in literature」を生かして、自分の読解を、ICTを活用しながら図示したもの。この活動は「グラフィックレコード」の方法を参考にしたものである。グラフィックレコードのもつ、「時間がかかりすぎてしまうこと」「生徒の絵の能力などに左右されてしまうこと」などのデメリットをICTを用いて克服していきたいと考えている。自分の読解を図示していくことは、自分の思考を整理、拡大していく手助けにもなるはずである*2。また、図示していくことで、他者と自分の意見を比較しやすくする、自分の意見の変容が見取りやすいなどの利点があると考えている。

ICTポートフォリオ…自分の読解の記録の場としてICTの特性を生かしたポートフォリオ。学習活動の中で得られたURLを貼るなど、ICTの機能を生かすことで、従来のポートフォリオのもつ「奥行き」と1枚ポートフォリオのもつ「一覧性」を兼ね備えた学習記録シートを考案したい。また、このICTポートフォリオには、他者とも思考を深めるきっかけとして、「いいね」機能や「コメント機能」も付けた。

*1 「conflict in literature」はアメリカの漫画家 Grant Snider が Web 上に公開した1枚の絵がはじまりとされている。この絵では「VS SELF」「VS SOCIETY」など、物語のシナリオが9つに分類されていた (<http://www.incidentalcomics.com/2014/05/conflict-in-literature.html>)。発表後、インターネット上ではこの9分類に基づいて物語を分析する活動が広まっていった。近年では、学術・教育の場でも応用されるようになってきている。Oregon State University の J.T. Bushnell は「(物語における)対立は緊張を生み出し、プロットをはじめ、テーマを作り上げる。対立に注目することで、物語の心臓部に行くことができる(鈴木訳)」と述べている (<https://liberalarts.oregonstate.edu/wlf/what-conflict>)。本研究では、「conflict in literature」の物語の構造分析の機能だけでなく、他者と意見交換するときの媒介にもなると考えている。文学作品において根拠に基づいて他者と異なった意見を述べるのは難しい上に、意見の交流の際も議論の焦点が噛み合わないことも多い。そこで、「conflict in literature」を活用していき、焦点を絞ることでより生産的な議論を生み出していきたいと考えている。「conflict in literature」は、様々なバージョンが存在するが、今回の授業では Grant Snider 版に基づいて9分類のものを使用した。物語を類型化し分類する方法は古くから文学研究において行われている研究である。「conflict in literature」はその中でも、どの時代の作品にも適応でき、汎用性が高い。また、「VS SELF」「VS NATURE」「VS SOCIETY」等の分類は、「現代の国語」で取り扱う評論文にも応用可能である。「現代の国語」と「言語文化」の内容をつなげる視点として活用できると考えている。

- *2 久保田麻美はグラフィックレコードの利点として「思考力が上がる」「コミュニケーションが活性化される」「創造力が上がる」の3点を挙げている(久保田麻美「はじめてのグラフィックレコーディング」翔泳社(2020))。

5 題材の目標

- (1) 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解できる。【知識及び技能】
- (2) 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈できる。
【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。
【学びに向かう力、人間性等】

6 題材の評価規準

- (1) 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解できている。(知識・技能)
- (2) 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈できている。(思考・判断・表現)
- (3) 学習課題に沿ってテキストを読み深めるため、読解ダイアグラムやICTポートフォリオを活用して自らの学習を調整しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

7 指導と評価の計画(全5時間)

| 時間 | ●ねらい ○学習活動 ☆ ICT活用 | 知 | 思 | 態 | ◇評価項目<方法(観点)> 〔記〕:記録に残す評価 |
|--|--|---|---|---|---|
| 1 | ●「夢十夜」に対しての自分の読解をもたせる。 ○「夢十夜」を読む。 ☆「夢十夜」(第一夜)がどの型に当てはまるか、最初の意見を読解ダイアグラムに記す。 ☆ICTポートフォリオに自分の考えを記録する。 | | ○ | | ◇読解ダイアグラムを用いて自分の意見を表現することができている。 <読解ダイアグラム(思)>〔記〕 ◇ICTポートフォリオで自分の意見を書いている。<ICTポートフォリオ(態)>〔記〕> |
| [単元・題材(小単元)の学習課題(単元・題材を貫く問い)] 物語を様々な角度から読解し、自分の考えを広げ、深める。 | | | | | |
| 2 | ●「夢十夜」における異化表現とその意味を理解させる。 ○文学における異化表現とは、「そのものをはじめてみたかのように表現する修辞法」であることを理解する。 ○「夢十夜」における異化表現を探す。 ○「夢十夜」の異化表現がもたらす効果について考える。 ☆今回の授業を踏まえてICTポートフォリオに『夢十夜』を「VS REALITY」で捉えた意見を書く。 | ○ | | | ◇異化表現に注目し、異化しているものを考察することができている。 <ワークシート(知)>〔記〕> ◇ICTポートフォリオで自分の意見を書いている。<ICTポートフォリオ(態)> |

| | | | | | |
|--|--|--|--|--|---|
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ●「女」が戻ってきたのかを考察させる。 ○「戻ってきた」「戻ってきていない」両方の意見を持ち、他者と討論する。 ●「夢十夜」と「ナルキッソス神話」を比較させる。 ☆二つの物語の相違点・共通点を比較し、気付いたことを記述する。 ☆今回の授業を踏まえてICTポートフォリオに『夢十夜』を「VS SELF」で捉えた意見を書く。 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ○ ○ <p>◇叙述の細かいところまで注目することができている。<ワークシート(思)></p> <p>◇ICTポートフォリオで自分の意見を書いている。<ICTポートフォリオ(態)></p> |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> ●「第六夜」を読んだ上で、「第一夜」を読解させる。 ○「運慶が今日まで生きている理由」を考察する。 ☆「第六夜」と「第一夜」の共通点を考える。 ☆今回の授業を踏まえてICTポートフォリオに『夢十夜』を「VS NO GOD」で捉えた意見を書く。 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ○ ○ <p>◇叙述に基づいて考察している。<ワークシート(思)></p> <p>◇ICTポートフォリオで自分の意見を書いている。<ICTポートフォリオ(態)></p> |
| 5 本 時 | <ul style="list-style-type: none"> ●これまでの授業を踏まえて、読解ダイアグラムを再び作成させる。 ○本文の内容を復習する。 ○「読解ダイアグラム」を作成し、他者と意見を交流する。 ○ICTポートフォリオに最終的な自分の意見を記録する。 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ○ ○ <p>◇これまでの読解を通して自分の読解を深めることができている。<読解ダイアグラム(思) [記]></p> <p>◇ICTポートフォリオに自分の意見が書かれている。<ICTポートフォリオ(態) [記]></p> |
| <p>[本時の学習課題] (めあて) これまでの学習を振り返りながら、自分の読みを広げ、深める。</p> | | | | | |

8 本時の展開 (5/5時間目)

- (1) ねらい
物語を多角的に分析した、これまでの読解を統合し、自分の考えを広げ、深めさせる。
- (2) 準備
プレゼンテーションアプリ、表計算ソフト
- (3) 展開

| | | |
|--|--|--|
| 時間 | <ul style="list-style-type: none"> ○学習活動 ・想定する生徒の意識 ☆ ICT活用 | <ul style="list-style-type: none"> ◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ●努力を要する生徒への支援 ◇評価項目<方法(観点)> |
| 導入 10 分 | <ul style="list-style-type: none"> 1 前時までの振り返りをする。 ○ICTポートフォリオで「いいね」が多数付いたコメントを振り返る。 ・「VS SOCIETY」の意見もいいな。 ☆ICTポートフォリオ | <ul style="list-style-type: none"> ◎明確な根拠をもっている意見、論旨が明瞭な意見に注目するように促す。 ○各観点で優れた意見を紹介する。 |
| <p>[本時の学習課題] (めあて) これまでの学習を振り返りながら、自分の読みを広げ、深める。</p> | | |

| | | |
|--------------------|--|--|
| <p>展開① 25分</p> | <p>2 自分の考えを構造化する。 ○これまでの学習内容を踏まえて、「夢十夜（第一夜）」について「conflict in literature」を介しての自分の考えを読解ダイアグラムで表現する。 ・「夢十夜」は夢という舞台で自分のことを考える作品だったな。 ☆読解ダイアグラム</p> | <p>◎単一の「VS〇〇」ではなく、「『VS〇〇』と『VS××』の物語である」と表現する。 ○読解ダイアグラムを用いて自分の読解を構造化していく。 ●前時までの自分の学習の記録を参考に自分の意見を書くように指示する。</p> |
| <p>展開② 10分</p> | <p>3 他者と読解を共有する。 ○完成したスライドを他の生徒と見せ合い、意見交換をする。 ○優秀なスライドをクラスで共有する。 ・「異化表現」について他の人は注目しているが、自分は注目していなかったので、自分の読解に入りたい。</p> | <p>○オリジナリティのある考え方や、論理が優れている生徒の作品を紹介する。 ◇前時までの授業を通して自分の読解を深めることができている。 <読解ダイアグラム(思) [記]></p> |
| <p>まとめ 10分</p> | <p>4 これまでの学習活動を振り返る。 ○最初に作った読解ダイアグラムと、本時で作った読解ダイアグラムを見比べて、授業を通して学んだ「夢十夜」の発見についてICTポートフォリオについて記述する。</p> | <p>◇ICTポートフォリオに自分の意見が書かれている。<ICTポートフォリオ(態) [記]></p> |

(4) 板書計画 ※スライド例

夢十夜

- * 夢という舞台の中で、自分のなかにあるよくわからないものと出会うので、「VS SELF」であり、「VS MAN」である。
- * 明治時代にとって女性はミステリアスな存在だったので、自分の中の他者を女性で表したのだと思う。
- * 自分の中の他者を受け入れた「私」は、本物の他者も受け入れられるようになると思う。
- * 「VS REALITY」なのは、自分のなかの他者に遭遇するためには、夢という現実が少し壊れた場所が必要だったから。

- * 私の顔が見えるかいと一心に聞くと、見えるかいつて、そら、そこに、写ってるじゃありませんかと、にこりと笑って見せた。
- * 自分は女に欺されたのではなからうかと思出した。